

1. 概要

7日に10月議会選挙のための公開一斉党内選挙が実施され、24日より各党は選挙キャンペーンを開始した。キルチネル大統領がドゥアルデ前大統領を初めて名指しで批判したことにより、両者の対立は表面化することになった。また、サンタクルス州公金使途不明問題で若干の進展が見られた他、政府はピケテロ対策の方針転換を行った。

外交面では、チャベス・ベネズエラ大統領、フェルナンデス・デ・ラ・ベガ西副首相が訪重した他、重でリオグループ特別外相会合が開催された。その他、キルチネル大統領とシラク仏大統領の電話会談、ビエルサ外相のエクアドル訪問、パンプーロ国防相のチリ訪問等が行われた。

2. 内政

(1) 10月議会選挙（上院改選議席：24、下院改選議席：127）

(イ) 党内選挙

(i) 7日、全国24選挙区の内15選挙区において、ペロン党、急進党、勝利のための戦線（FV）、社会党、ティエラデルフエゴ人民運動の5つの政党又は選挙連合により、10月議会選挙のための公開一斉党内選挙が実施された。

(ii) 同日の党内選挙は、10月議会選挙とは異なり、投票が義務ではなく自由であるため、投票資格のある党员及び無党派層の約3.2%が参加しただけであった。

(iii) また、党内選挙は、党内に対立候補がない場合には実施する必要がなく、10月議会選挙の主要候補者の動向を左右する党内選挙は行われなかったが、ブエノスアイレス州選挙区においてリカルド・アルフォンシン（アルフォンシン元大統領の息子）が急進党から、ラリオハ州選挙区においてメネム元大統領がペロン党から候補者となることが決定したこと等が注目された。

(ロ) 選挙キャンペーン開始

(i) 24日、選挙法に基づき、各陣営が選挙キャンペーンを開始した（選挙法により選挙実施60日前から選挙キャンペーンの開始が認められている）。

(ii) 24日、キルチネル大統領が率いる選挙連合FVは、サンタフェ州ロサリオ市において、10月議会選挙のFV候補者の発表集会を行い、キルチネル大統領、クリスティーナ大統領夫人（サンタクルス州選出上院議員）、選挙キャンペーンに参加しない旨表明しているラバーニャ経済相を除く全ての閣僚、15人の州知事等約5,000人が集まった。

(iii) また、ブエノスアイレス州ペロン党、急進党、共和国平等党、選挙連合「共和国提

案」(注：変革党(マクリ党首)と国家再建党(ロペス・ムルフィー党首)の選挙連合)等の他の陣営も選挙キャンペーンを開始した。

(2) キルチネル大統領とドゥアルデ前大統領の関係

(イ) 24日のFV集会において、クリスティーナ大統領夫人は、「選挙前に暴力の風潮を扇動する目的で、大統領公邸に招かれたことのある者を利用して、(巫の)不安定化を狙う密約がどこかにある」等と述べた。同発言は、ドゥアルデ政権時に大統領公邸に招かれたことのあるピケテロのことを意味していると思われる、ドゥアルデ前大統領を暗に批判しているものと見られている。

25日、キルチネル大統領は、「ブエノスアイレス州において我々が苦しんでいる合意とは、ドゥアルデ(前大統領)、メネム(元大統領)及びパティ(連邦統一党党首)の三者が巫を(90年代の)過去に逆行させようとしている合意である」と述べて、初めてドゥアルデ前大統領を名指しで批判した。なお、ブエノスアイレス州選挙区から10月議会選挙に立候補するドゥアルデ前大統領夫人とパティ連邦統一党党首は、選挙合意を既に結んでいる。

(ロ) ドゥアルデ前大統領は、キルチネル大統領の発言について記者から質問を受けて、「いつ発言したのか」、「キルチネル大統領がそのように発言したとは思わないが、それが本当だとしたら非常に残念だ」と述べた。

(ハ) その他、現政権内のラバーニャ経済相及びシオリ副大統領が、ドゥアルデ前大統領を擁護する発言を行い、キルチネル大統領とドゥアルデ前大統領の関係を巡り、一部閣僚の動向にも関心が集まった。

(3) サンタクルス州公金使途不明問題

(イ) 1日、アセバド・サンタクルス州知事は、スイスの銀行に預けている同州の公金5億2,124万1,184ドルを、同州の銀行に戻す州知事令に署名し、同日、キルチネル大統領と共に記者会見を行った。キルチネル大統領は、州民にとって最善の預金先であると述べて州知事時代の海外預金を正当化した。

キルチネル大統領は、同州知事時代に州の公金をスイスの銀行に預け、同公金の使途等が不透明であったこと等により野党から強く批判されてきた経緯がある。

(ロ) 野党は、同発表が行われても、銀行口座の全ての収支が明らかになっていないとして、引き続き解明を求めている。

(4) ピケテロ

(イ) 16-19日、複数のピケテログループは、失業中世帯主に対する補助金増額(月額150→350ペソ)等を求めて道路封鎖等の抗議行動を行い、一部道路で大渋滞を引き起こした。

(ロ) 26日、治安当局は、プエイレドン橋の封鎖を行おうとしていたピケテロに対して、武器を携帯しない警察官等の治安部隊で壁を作り、ピケテロが同橋に入ることを阻止した。また、治安当局は、五月広場に入る一部道路でも同様の措置をとった。政府は、10月議会選挙に向けて、ピケテロの道路封鎖に不満を募らせている中産階級等に配慮する戦略に転換したのではないかと見られている。

3. 外交

(1) ベネズエラ

(イ) 11日、チャベス・ベネズエラ大統領は、前訪問地のウルグアイより亜に到着し、キルチネル大統領との会談、各種通商合意への署名、ブエノスアイレス州内のリオ・サンティアゴ造船所訪問等を行った。

(ロ) キルチネル大統領は、ベネズエラの恒常的な亜への支援、ベネズエラ政府による亜国債購入及び亜のマルビーナス領有権主張に対するベネズエラの支持について感謝の意を伝えた。

これに対し、チャベス大統領は、キルチネル大統領の政策運営等を賞賛し、ベネズエラは、亜国債の購入を続けるであろうと発言した。更に、同大統領は、対米関係に触れ、米の対ラ米政策やイラク政策を批判し、また、亜国債の購入に関連して、亜国債は米国債より千倍も危険が少ない等の発言を行った。

キルチネル大統領は、チャベス大統領が対米批判を行っている間は、まっすぐ前を見て拍手を控える等対米関係配慮をうかがわせる態度をとった。

(ハ) 通商合意

両国は、ベネズエラによる亜リオ・サンティアゴ造船所への石油タンカー2隻の発注、2.4億ドル分のベネズエラ産燃料油と亜工業製品との交換、ベネズエラのプエルト・オルダスにおける共同の水力関連研究所建設(1.8億ドル)に関する趣意書、中小企業支援基金の創設、亜ナシオン銀行カラカス支店及びベネズエラ工業銀行ブエノスアイレス支店の開設等について合意した。

(ニ) 午後には次の訪問地である伯に向けて出発した。亜滞在時間は約7時間であった。

(2) スペイン

(イ) 4-6日、フェルナンデス・デ・ラ・ベガ西副首相は、10月にスペインのサラマンカで開催されるイベロアメリカ・サミットへ参加予定のラ米の一部の諸国(亜、コスタリカ、チリ、ブラジル、ウルグアイ)への外遊の一環として亜を訪問した。

(ロ) 4日、同副首相は、上院において、シオリ副大統領(上院議長)と会談した。同副首相は、西は常に亜国民を支持し、両国は、二国間協力の強化を図るための戦略的同盟に関する合意文書をもうすぐ完成させるであろうと述べた。

(ハ) 5日、同副首相は、大統領府において、キルチネル大統領と会談した。会談におい

て、同副首相は、キルチネル大統領の政策運営に対する西政府の支持を表明し、亜における西系企業による投資に関して亜における西投資拡大の新しい時代が始まったと述べた。また、先般、亜最高裁が西からの引き渡し要請を拒否したイリオンドE T Aメンバーに関し、同副首相は、キルチネル大統領に対して、イリオンドの政治亡命を認めないよう要請した。

(二) その他、同副首相は、クリスティーナ大統領夫人（上院議員）との会談、西系企業関係者との懇談、亜有識者との昼食会等を行った。

(3) リオグループ特別外相会合

(イ) 25-26日、リオネグロ州バリローチェ市において、リオグループ特別外相会合が開催された。

(ロ) リオグループ加盟国の外相は、バルデス国連ハイチ特別代表及びインスルサOAS事務総長の詳細な報告を聞き、ハイチ情勢に特別の関心を払うと共に、ハイチの政治的・経済的・社会的危機に対する民主的・持続的解決のためのハイチ国民の努力を支持し続けることにコミットする旨表明した。

また、リオグループ加盟国の外相は、リオグループ首脳宣言案に含まれるテーマについて話し合い、以下の2つの宣言を採択した。

(i) コロンビアに関する宣言

リオグループ加盟国の外相は、和平達成のためのコロンビアの努力に対する支持及び支援を表明し、OASが行っている拠出金に謝意を表明する。

(ii) ベネズエラに関する宣言

リオグループ加盟国の外相は、米国の宗教報道者パット・ロバートソン氏のチャベス・ベネズエラ大統領暗殺の呼びかけを断固として拒否する。

(ハ) 本来25-26日に行われる予定であったリオグループ首脳会合は、年末までに開催される予定である。同延期は、多くの加盟国の首脳が、それぞれ国内問題への対応に追われ同首脳会合への出席が難しくなったためとみられている。

(4) 南米共同体外相会合

1-2日、ビエルサ外相は、南米共同体外相会合に出席するため、エクアドルを訪問した。同外相会合では、政治的対話、インフラ統合、エネルギー統合、複数の会合の合理化等について話し合われ、グアヤキル宣言が発出された。同会合は、9月29-30日にブラジルで開催される南米共同体首脳会合の準備会合である。

(5) フランス

(イ) 31日、キルチネル大統領は、シラク仏大統領に架電し、約15分間の電話会談を行った。

(ロ) キルチネル大統領は、シラク大統領に対し、亜軍政期（1976－1983年）に行方不明となった2名の仏人修道女 Leonie Duquet 及び Alice Domon の内、Duquet 修道女の遺体を確認されたことを伝えた。同2名の修道女は、1977年より行方不明となっており、亜仏間の外交問題の一つとなっていた経緯があるが、29日、亜裁判所が、ブエノスアイレス市内の墓地にある遺体の一つが、Duquet 修道女のものであることがDNA鑑定の結果から確認されたことを発表した。

(ハ) シラク大統領は、キルチネル大統領に対し、大変喜ばしいニュースであり、亜政府の勇気ある貢献に感謝すると伝えた。

(6) チリ

28－29日、パンプーロ国防相は、ラゴス大統領、ラビネ国防相、ウォーケル外相等と会談するため、チリを訪問した。両国は、共同平和維持軍を創設し、国連の要請に応じて、平和維持活動において協力していくことに合意する文書に署名した。同軍の初めてのミッションとして、来年にハイチで活動を開始することが検討されている。

(7) コロンビア

(イ) 13日付ラナシオン紙は、昨年亜に入国したコロンビア革命軍（FARC）の元メンバー6名が亜政府に対して政治亡命を求め、亜政府は右を認めるか否か検討中であると大きく報じた。

(ロ) 亜当局は、6名は政治亡命を求めたのではなく、難民としての庇護を求めたと述べると共に、6名の内1名に対しては、FARCによって家族が殺害されたとして難民の立場が認められ、残り5名への措置については検討中であると述べた。

(8) 旧ユーゴ戦犯の逮捕

(イ) 8日、亜警察当局は、旧ユーゴ内戦で住民虐殺に関わったとして、旧ユーゴ国際刑事裁判所（ICTY）より人道に対する罪で起訴されていたセルビア人ミラン・ルキッチ被告をブエノスアイレス市で逮捕した。

(ロ) 11日、セルビアのベオグラード第一審裁判所は、亜裁判所に対して、同被告の引渡しを要請した。

(ハ) 同被告は、セルビアの裁判所ではなく、ICTYへの引渡しを求めており、今後、亜裁判所は、どちらの裁判所に引き渡すか決定することになる。

(9) 要人往来

(イ) 来訪

8月4－6日	フェルナンデス・デ・ラ・ベガ西副首相
8月11日	チャベス・ベネズエラ大統領

8月25－26日 リオグループ特別外相会合開催
(ロ) 往訪

8月1－2日 ビエルサ外相のエクアドル訪問 (南米共同体外相会合出席)

8月28－29日 パンプーロ国防相のチリ訪問 (ラゴス大統領、ラビネ国防相、ウオーケル外相と会談)

8月29－30日 ビエルサ外相のアルメニア訪問 (コチャリャン大統領及びオスカニアン外相と会談)